

里山バンクでの5年間の活動と今後の展望

株式会社椿ファーム 酒々井事業所
川村 昂史

本日の話題

1. 自己紹介
2. 弊社の概要
3. 里山事業の概要
4. 里山バンク5年間の歩みと課題(ハード編)
5. 里山バンク5年間の歩みと課題(ソフト編)
6. 里山バンクの今後

1. 自己紹介

名前：川村昂史（かわむらたかふみ）

所属：株式会社椿ファーム 里山事業担当

経歴

2018年 東京都市大学環境学部環境創生学科卒業 学士（環境学）

2020年 同大学院環境情報学研究科博士前期課程修了 修士（環境情報学）

現在 同博士後期課程在籍中

主な研究分野

生態系を利用した防災・減災（Eco-DRR）

環境アセスメント

生物多様性オフセット・バンキング

2. 弊社の概要

創業年：2018年

代表取締役社長：椿雄次

所在地：千葉県富里市（本社）、酒々井町（事業所）

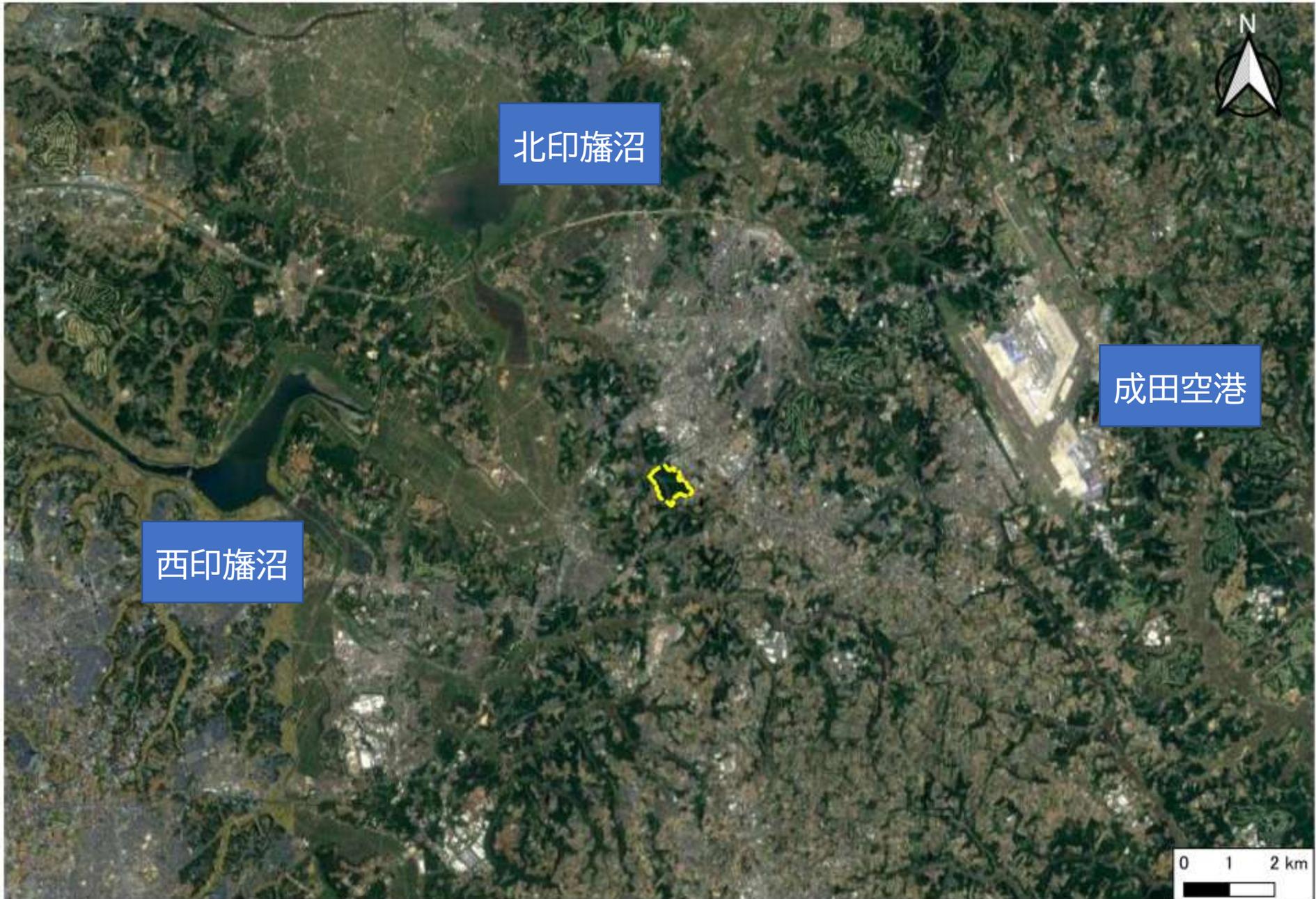
社員数：9名（2024年12月現在）、うち里山事業専任は1名

耕作面積：約6ha（酒々井町、富里市、成田市など）

主な生産品：コメ，根菜類（いずれも農薬・化学肥料不使用），炭

3. 里山事業の概要

- 千葉県酒々井町にある43haのまとまった水田・山林・原野のうち、25haを弊社社長が保有
- 二度の開発の危機を乗り越えた“奇跡の里山”
- **水田雑草群落**を主な生育・生息地とする絶滅危惧種を多数確認（典型的な北総の里山生態系）
- 例：カザグルマ、エビネ、クマガイソウ、キンラン、ギンラン、シャジクモ、サシバ、フクロウ、アカハライモリ、ニホンアカガエル 等
- **水稲栽培**や**エコツアー**を実施
- **日本版生物多様性バンキング**事業の実験地として大学が利用
- 作業：山林における**草刈り**（冬）、通路の草刈り（通年）、**竹林の伐採、巡回** 等 ←巡回以外はいずれも弊社社員が農作業の合間に実施



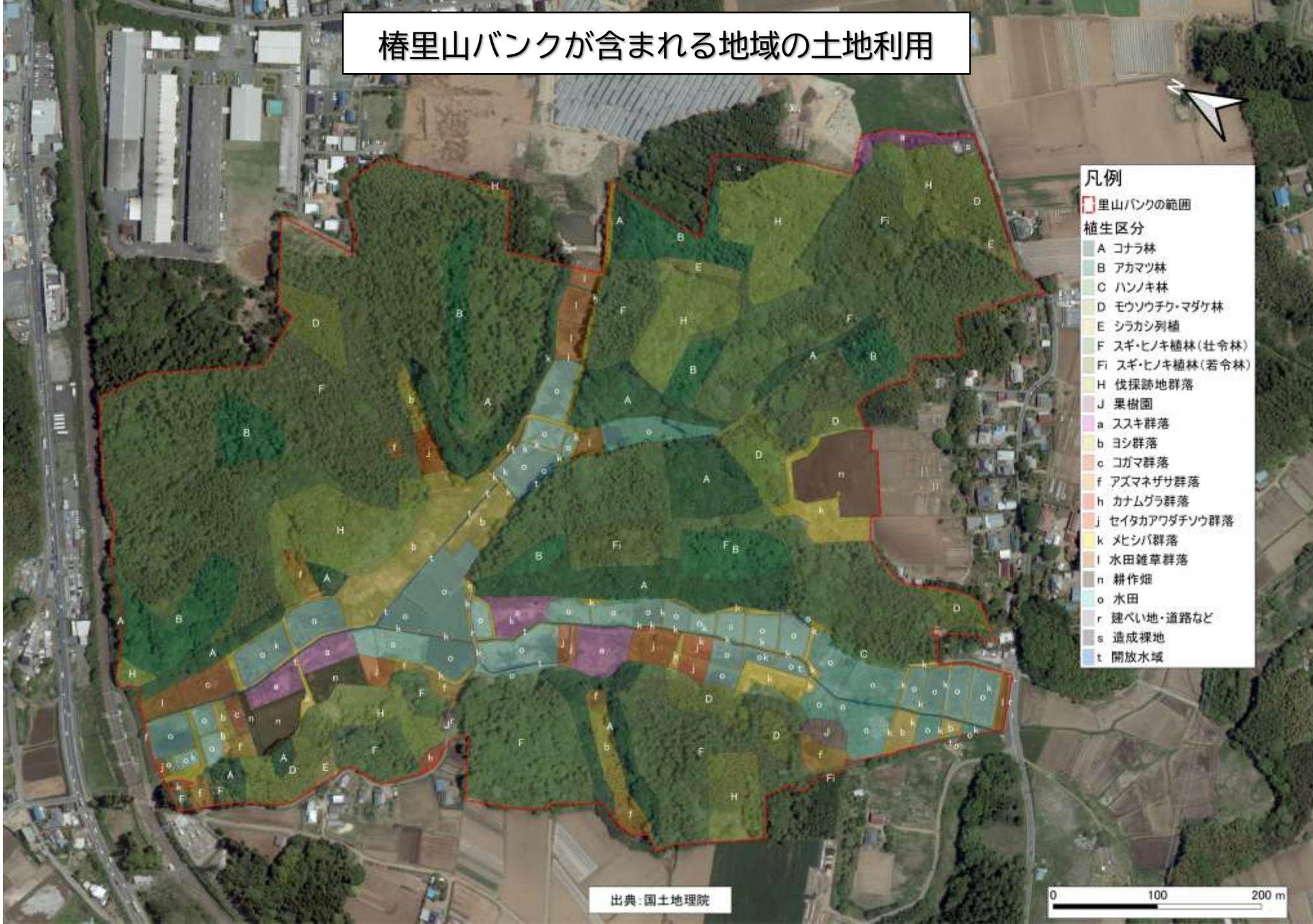
北印旛沼

西印旛沼

成田空港

0 1 2 km

椿里山バンクが含まれる地域の土地利用





4. 里山バンク5年間の歩みと課題（ハード編）

5年間の土地利用の変化・劣化を抑えるための活動

- 2020年：元土地区画整理事業組合事務所周辺の片付け（事務所の修繕、竹林の伐採）ならびに谷底平野への通路の復旧、土水路の復元
- 2021年：斜面林・放棄水田の草刈、水稻栽培開始
- 2022年：伐開したエリア・通路の維持（草刈、除伐）
- 2023年：放棄水田の復元エリア拡大（約3000m²から約1haに拡大）
- 2024年：伐開したエリア・通路の維持（草刈、除伐）

5年間に発見した生物（特筆すべき種）

- 2022年：カザグルマ、ミドリシジミ
- 2023年：ニホンアカガエルの卵塊、アカハライモリ

2019年3月



Image © 2025 Maxar Technologies

今倉新田
Google Earth

2020年12月



2022年11月



2023年10月



- 通路・水田・斜面林の復元

放置され荒廃していた里道（歩道）・水田・斜面林を修復





2021年10月



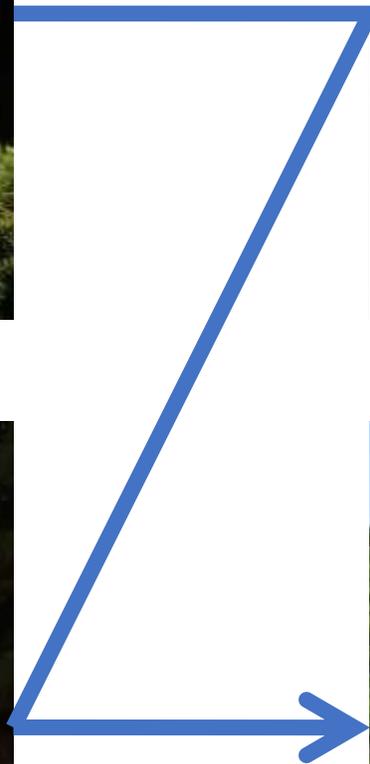
2021年12月



2021年3月



2021年4月



春



ヤマザクラ



ギンラン



サシバ



クマガイソウ

夏



カブトムシ



ヤマユリ



シュレーゲルアオガエル



ミヤマウズラ



エビネ



キンラン



カザグルマ



ノコギリクワガタ



キツネノカミソリ



ミドリシジミ

秋



ヒガンバナ



アオダイショウ



ヤマホトトギス



ナツアカネ

冬



ヤクシソウ



キタテハ



アカゲラ



シジュウカラ



ヤマトリカブト



コオイムシ



サラシナショウマ



ルリビタキ



ノスリ



エナガ

水田の復元と水稻栽培の再開

荒廃した放棄水田を水田に復元、高付加価値品種 “いのちの壱” を無農薬無化学肥料で栽培



5年間に直面したハード面での課題

特定外来生物の存在

2020年時点からアライグマが生息（被害状況は不明だが、ニホンアカガエルが23年にしか確認できなかったため捕食している可能性がある）

極端な気象現象

2023年の台風シーズンに降水が少なく、24年は暖冬だったためラン科植物の開花タイミングがずれた（過去2年5月ごろ開花していたクマガイソウが4月に開花。）

ナラ枯れの拡大

2021年から被害木を確認

2024年、被害木が通路をまたぐ形で倒れる二次的被害も発生

2021年7月



2022年8月



2024年10月



5. 里山バンク5年間の歩みと課題（ソフト編）

5年間の活動

- 里山を活用した季節の**自然体験**
 - タケノコ掘り、稲刈り
- 里山保全に関する**普及啓発**
 - 東京大学教養学部授業の受け入れ
- **研究活動**への協力
 - 東京都市大学環境学部・大学院所属学生による研究活動の受け入れ
（例：里山生態系が持つ生息地・洪水調整機能の同時評価、火山礫による水質浄化実験など）



里山保全に関する普及啓発（エコツアー）



季節の自然体験

5年間に直面したソフト面での課題

安定した**資金**の確保

慈善事業的な側面が強く、事業単独で採算が取れる状態ではない

生物多様性クレジット発行の実験が行えず当初の目的を果たせなかった

安定した**生物多様性人材**の確保

里山生態系に関して知識がある人材を確保できず事業が遅滞

ハード面での作業を担う従業員への教育が不十分で必要のない作業や過剰な作業により里山生態系の構成要素が毀損される事例が散見

中長期的な**保全計画**の制定

保全計画がないため、「本業（農業）の傍らでできることをする」ことが多かった

6. 将来の展望

安定した**資金**の確保

環境教育プログラムの開発と継続的な実施

生物多様性クレジットの生成に向けた研究の継続と実証実験の再開

安定した**生物多様性人材**の確保

従業員への里山生態系に関する研修を実施

保全計画の立案と実行

25年度中に自然共生サイトへの登録を目指し、中長期的な保全計画を立案する予定（これを基に従業員研修を行う）

ご清聴
ありがとうございます
ございました

興味があればぜひ川村
(kawamura@tsubakifarm.com) まで
ご連絡ください！

